

シリーズ

平塚のお祭り ⑦

むかしのお祭り

お祭りは日常生活から解放されるハレの日です。とりわけ昔は労働が激しく、娯楽も少なかったため、誰もがお祭りを心待ちにしたことでしょう。余興で演じられる神楽・田舎芝居・歌舞伎などは大きな楽しみでした。余興の準備は青年会の若者たちがすべて行いました。役者の交渉から始まり、衣装や小道具を運び、境内に丸太を組んで神楽殿を設営し、幕間に役者が化粧を落としに入る風呂桶を担ぎ上げました。ムシロを一軒ずつ集めて見物客用に境内に敷き詰め、同じくお握りとお煮めを集めて役者や近隣の太鼓連などへふるまいました。

神輿と太鼓は保存会など無く、どちらも青年会が主体でした。太鼓はお祭りの一カ月前から每晚集まって叩き、革を伸ばしては締め、宵宮は境内に組んだヤグラで一晩中叩きました。本祭りには鼻におしろいを塗った子どもたちが一生懸命、山車の綱を引っ張りました。お神輿も“ワッショイワッショイ”“あしたはねえぞ、今夜はあんど”などと声を掛け、夜遅くまで担ぎ通しました。

暗くなると境内で神楽や芝居が始まり、厚木の柿の助や源五郎などの



大島八幡神社のダルマ山車
昭和24年4月17日（清田勇氏所蔵写真）



入野八坂神社の神輿と青年 昭和29年4月

花形役者が出演すると見物客でびっしりと埋まりました。芝居の一幕が閉まると、「パパパン」とひときわ甲高い音が鳴り響き、近隣の太鼓連との競り合い（叩き合い）が始まります。城所の貴船神社では、岡崎や伊勢原の太鼓連を互いのお祭りに招き合い、戦前は7カラ（組）もの太鼓をヤグラに並べて叩き比べをしました。歌舞伎や芝居も夜遅くまで演じられ、大神では寄木神社の歌舞伎が終わる頃は夜が白々と明けていたといわれます。

このように、むかしのお祭りは青年会の存在が欠かせず、若者たちが溢れるばかりのエネルギーをお祭りに注ぎました。戦争が激しくなると自粛されますが、戦後すぐに活況を取り戻し、青年団男女の芝居なども流行します。しかし、昭和30年代後半から40年代の高度経済成長期にかけて衰退し、お神輿の渡御や太鼓やお芝居も中断されます。その理由は、勤め人の増加、青年組織の解体、娯楽の多様化など、社会構造の急速な変化によります。昭和50年頃になると全国的に伝統文化を見直す気運が盛り上がり、お祭りも復活します。復活後は、女性や小中学生、氏子以外の友好団体も大切な担い手となり、伝統をふまえた上で、時代に即応した新たなお祭りが創り出されています。

（平塚市博物館学芸担当）



巖光 自画像 1934年

近代日本洋画の華

～愛知県美術館所蔵品展～

開催期日 平成21年4月25日(土)～平成21年6月21日(日)

会場 平塚市美術館

開館時間 9:30～17:00(入場は16:30まで)

休館日 毎週月曜日※5月4日(月・祝)は開館

観覧料 一般700(560)円、高大生500(400)円

※()内は20名以上の団体料金 ※平塚市民で60歳以上の方、身体障害者手帳・療育手帳等の交付を受けた方は無料

お問合せ先 0463-35-2111

●展覧会内容●

本展では、愛知県美術館が所蔵する近代日本の優れた洋画作品を紹介します。



安井曾太郎 承德喇嘛廟 1938年

平塚市文化振興基金にご協力を!!

平塚市文化振興基金にご協力いただいた方（敬称略）（平成20年12月から平成21年1月）

■平塚市ビルメンテナンス業協同組合(12.18) ■竹遊会(12.18)



発行//平塚市(文化・交流課) ●お問い合わせ及び寄付金のお申し込み

〒254-0045 平塚市見附町15-1



TEL 0463-32-2235 FAX 0463-31-6466

ご意見ご感想などお聞かせください（今後の参考とさせていただきます）→ご意見等はEメールで（E-mail //bunkoh@city.hiratsuka.lg.jp）